薩埵峠（さった） 標高244m本州のど真ん中を歩く ● 約7km

薩埵峠をハイキング気分で歩くコースである。古来から交通の要衝として厳しい地形条件のなか人の知恵と努力が道をつくり、歴史がうまれました。東名高速道路、国道1号、JR東海道線が集中している景観も見事です。

- 旧東海道
- お勧め探訪コース
- 情報拠点
- 見どころ
- 案内板・説明板・マップ
- スタンプ設置場所
- 写真撮影ポイント
- 食べ処
- バス停
- 駐車場
- トイレ
- コンビニ
- 興津町の小さな博物館

0 250m 500m

朝鮮通信使とは…

家康公の要請により1607年から約200年間12回、国賓として来日しています。清見寺・興津の宿場にも泊まり、地域の人たちと儒学、医薬学、詩文、書画等の交流を、夜を徹して行われました。隣国同士が約260年もの間平和で対等な交流を行っていたことは世界でも珍しいことでした。

間の宿、西倉沢
富士山が正面に見えます

鞍佐里神社

❶身延道道標・石塔寺

鎌倉期にはそのルートが開かれていたといわれ、戦国時代に駿河進攻をもくろむ武田信玄公により整備され、駿河と甲斐を結ぶ交易路でしたが、江戸時代初期には身延山久遠寺への信仰の道として確立されました。街道として最も賑わったのは幕府甲府勤番が設置された江戸時代中頃。

❷宗像（むなかた）神社・女体の森

創建は平安時代中期といわれ、祭神はスサノウノミコトの子の3人の女神（宗像三女神）で航海安全の神さまです。女神の一人奥津島姫命（おきつしまひめみこと）が興津の地名の由来と言われています。江戸時代に木、豊穣、音楽、知恵、水の神として信仰する弁天信仰と同化され、境内の森を「女体の森」、池を「弁天池」となっています。

地元の漁師は、神社の森やクロマツを灯台代わり目印にしていました。

❸海岸寺

江戸時代の初期に波除け観音堂が建てられ、のちに龍河山宗徳院の歴住の隠居場所とされました。1636年朝鮮通信使の一行が立ち寄り、紫峰が扁額を残しています。駿河国百地蔵菩薩霊場　第八六番札所、東海八十八ヶ所霊場弘法大師第四九番札所であり、本堂の阿弥陀如来（別名波除け如来）を中心に左右50体ずつ100体の観世音があります。

❹薩埵山

薩埵山は重要な戦略地点のため、たびたび戦場となっています。

- ●室町時代1351年（観応の騒乱＝幕府の内部抗争）、足利尊氏は弟足利直義の大軍を撃破。「太平記」に見える陣場山、桜野などの地名は、これより北方の峰続きです。
- ●戦国時代、1568年の駿河進攻した武田信玄は今川氏真を撃破。翌年、今川救援に小田原の北條氏が出兵。武田軍と二ヶ月余も対陣しましたが、決定的な戦果はなくて武田方が軍を引く。

❺薩埵峠の道

薩埵峠には4つのルートがありました。

①**薩埵地蔵道**／由比、蒲原の人が東勝院にある地蔵へお参りに行くための道

②**上道**／1654年幕府が朝鮮通信使を迎えるため開いた道。参勤交代の大名もとおりました。

③**中道**／1682年東海道として整備した道。朝鮮通信使のために整備したともいわれています。現在の峠道として歩いているルートです。

④**下道**／古来より使われていた「親知らず子知らず」の道です。安政の大地震で2m程隆起してからは常時通行できるようになりました。現在、JR東海道線のあたりです。

❻鞍佐里（くらさり）神社

「日本武尊が東征の途中、賊の焼き打ちの野火に逢い、自ら鞍下に居して神明に念ず、其鞍、敵の火矢によって焼け破れ尽くした。依って鞍去（くらさり）の名あり」と伝えられ、鞍去が後に倉沢と変わったともいわれています。神社拝殿の蟇股（かえるまた）はこの逸話を彫刻しています。大正14年（1925年）に薩埵山の山の神から現在地に移っています。

❼間の宿、西倉沢

西倉沢は、薩埵峠の東坂登り口の間の宿（あいのしゅく）で十軒ばかりの茶屋がありました。旅人は駿河湾の風景みながら、お茶を飲み、疲れをいやしました。川島家は、江戸時代からおよそ230年間、川島助兵衛を名のった名主です。大名も休憩したので、本陣と呼ばれていました。

❽望嶽亭藤屋

峠の東口ふもとにあり、室町時代末期にはその名を残しています。間の宿として、脇本陣・茶屋として多くの文人墨客で賑わいました。かつては磯料理が名物の茶屋で、離れ座敷からの富士山の眺めが格別なことからこの名が付きました。徳応4年、官軍に追われた山岡鉄舟を望嶽亭の主人が蔵屋敷で漁師に変装させ、隠し階段から海岸へ逃がし、船で清水まで送り、清水の次郎長にその身柄を託したそうです。その時鉄舟が残していったフランス製のピストルが歴史を物語っています。

❾小池邸

小池家は武田氏家臣が移住し、代々寺尾村の名主を務めていた家です。建物は、明治時代つくられ、大戸・くぐり戸・ナマコ壁・石垣等に江戸時代の名主宅の面影を残しています。

H26.10月 静岡二峠六宿街道観光協議会